

輝け！シン尾花沢中

第25号

令和8年

5月11日

まちのさかえは 国の富 はたらくものの よろこびを

他人の役に立つことを求める①～徳良湖まつりボランティアに参加して～

活力

ふるさとを大切に

夢や志をもち、他人の役に立つことを求める生徒

校訓「活力」の目指す生徒像に基づき、5月3日（日）～5日（火）の徳良湖まつりに、50名を超える尾中生がボランティアとして参加しました。

今号は、3日（日）のマラソン運営ボランティアに参加した尾中生の感想を紹介します。

五十嵐さん（3年）：予想よりも大変で疲れましたが、お客さんやランナーの方々に「ありがとう」「がんばります」と声をかけられるとうれしくなって「頑張ってたかっ」と思いました。これからは、私も相手に何かしてもらったら感謝の気持ちを伝えたいと思います。

樋渡さん（2年）：3日と4日に参加しました。ボランティアという普段と異なる視点で徳良湖まつりを見たときに、多くの人々が関わっていて皆でまつりをつくっていることを実感しました。これからも徳良湖を含め尾花沢を盛り上げていく行事に積極的に参加して、皆から愛される尾花沢市になるように貢献していきたいです。

三瓶さん（2年）：ボランティアを通して、初対面の人と仲良くなれました。蕎麦をふるまう手伝いをしたときに、「ありがとう」と感謝されたことがうれしかったです。お客様の好みに応じて、具材をどれぐらいのせたらよいか、について注意を払いました。これからも、ボランティアに挑戦したいです。

五十嵐さん（1年）：初めてボランティアに参加しました。最初は受付業務、次に蕎麦にねぎを入れる業務をしました。ねぎ入れのとき、ずっと中腰でとても疲れました。最後に、お弁当を食べられないくらい蕎麦をたくさんいただいたことが印象に残りました。

阿部さん（1年）：思っていた以上に大変でした。特にランナーに蕎麦を配る業務が大変でした。で、楽しく、いい経験ができたと思いました。

笹原さん（1年）：最初、マラソンで走ろうと思っていましたが定員に達したため、走ることをあきらめました。ただ、少しでも徳良湖マラソンに貢献したいと思いボランティアに参加しました。僕は休憩所を担当しました。休憩所を訪れた人々は、僕たちに優しく接してくれてとてもうれしかったです。ボランティア活動で、僕たちに仕事のやり方を教えてくださった方々にも感謝します。



他にも多くの尾中生が徳良湖マラソン運営のボランティアに参加しました。私もランナーとして参加しましたが、緑の体育着を着た尾中生の頑張っている姿を見るたびに勇気をもらい、おかげさまで何とか走り切ることができました。ありがとうございました。

次号も、徳良湖まつりに参加した尾中生の感想を紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】